

令和6年度第1回 船橋市母子保健連絡協議会

【議題1】

「すこやか親子ふなばし」の評価について

船橋市 地域保健課

1. 船橋市母子保健計画「すこやか親子ふなばし」について

【基本理念】 すべての子どもが健やかに育つまち船橋

【主要課題】

○基盤課題A

切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策

○基盤課題B

学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

○基盤課題C

子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

○重点課題①

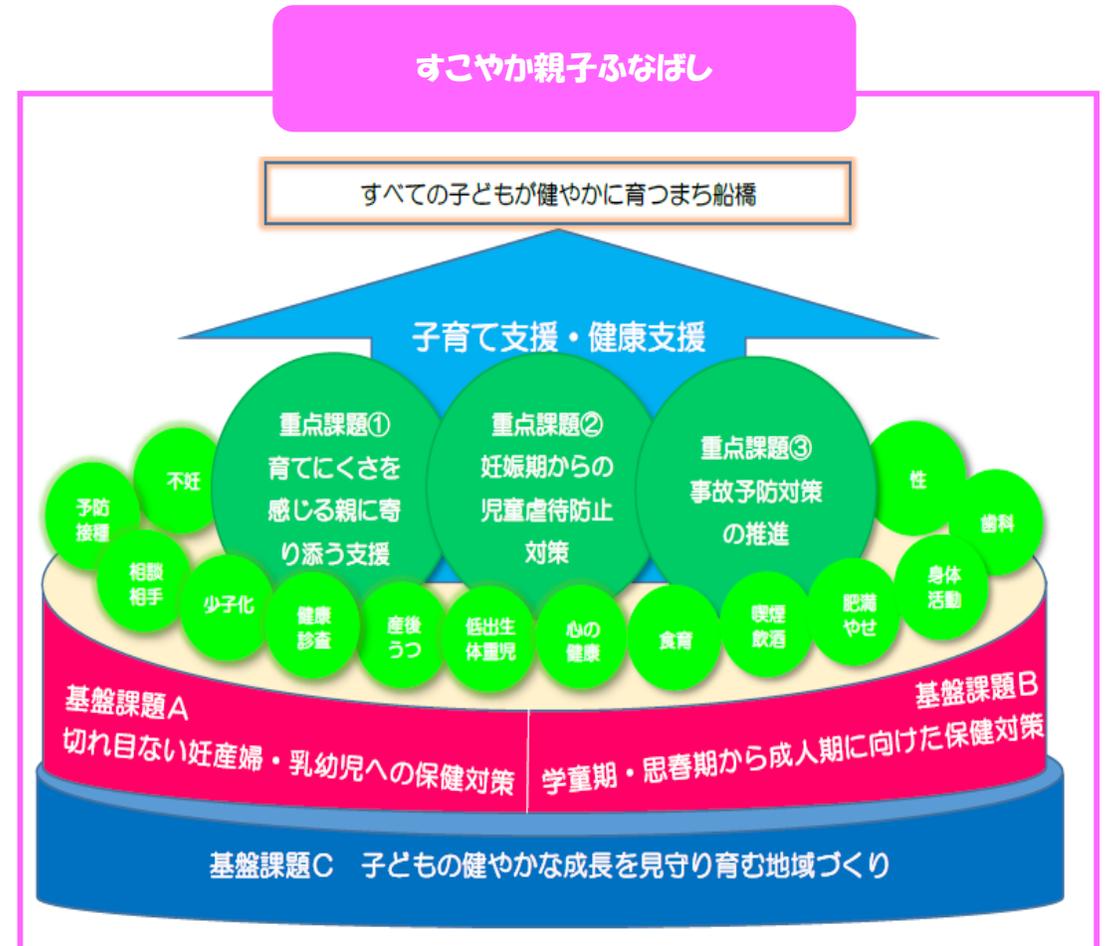
育てにくさを感じる親に寄り添う支援

○重点課題②

妊娠期からの児童虐待防止対策

○重点課題③

事故予防対策の推進



2. 最終評価の目的と方法

(1) 最終評価の目的

計画策定からの取り組み状況を踏まえ、目標の達成状況や取り組みに関する評価を行い、今後の母子保健活動及び今年度策定する「成育医療等に関する計画（旧母子保健計画）」に反映させていく。

(2) 最終評価の方法

各指標のベースライン値、現状値（最終評価値）、目標値からa～eに分類し評価した。

また、計画策定後に目標値を設定することとなっていた指標については、最終評価時の目標が設定されていないため、「e 評価できない」に分類した。

- a.改善した（目標を達成した）
- b.改善した（目標に達成していないが改善した）
- c.変わらない
- d.悪くなっている
- e.評価できない

3. 「すこやか親子ふなばし」最終評価の結果①

71指標110項目について評価した結果、改善した項目は37.3%、今回変化が見られなかった項目は20.9%、悪化した項目は22.7%だった。

目標の達成状況

評価		項目	%
a	改善した（目標を達成した）	23	20.9%
b	改善した（目標に達していないが改善した）	18	16.4%
c	変わらない	23	20.9%
d	悪くなっている	25	22.7%
e	評価できない（策定後追加調査項目含む）	21	19.1%
計		110	100%

4. 主要課題別の取り組みと評価

基盤課題A 切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策

- 乳幼児健康診査受診率は、保健センターで実施する健康診査（4か月児健康相談、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査）は低下しているが、個別に医療機関を受診する健康診査（3～6か月児、9～11か月児）は上昇。保健センターで実施する健康診査受診率の低下は、新型コロナウイルス感染症による影響が大きいと考えられるが、未来所者に対しては保健師による電話や家庭訪問、医療機関の受診状況や保育園等の通園確認等を行い、全数把握を行なった。今後も対応を継続していく。

計画期間 令和2年度から令和6年度まで（5年間）

◎：目標達成

指標	H30 (策定時)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値	
乳幼児健康診査 受診率（％）	4か月児健康相談	93.6	60.6	77.9	79.7	85.8	95	
	3～6か月児健康診査	91.5	94.9	92.7	97.3	95.1	93	◎
	9～11か月児健康診査	82.4	83.4	86.6	85.9	85.0	84	◎
	1歳6か月児健康診査	96.1	93.8	91.2	91.9	92.7	97	
	3歳児健康診査	94.1	88.0	88.4	88.0	89.3	95	

【再掲】

幼児健康診査集 団健康診査来所 率（％）	1歳6か月児健康診査	91.7	67.3	75.7	79.3	88.3	97	
	3歳児健康診査	89.5	65.8	75.7	78.5	85.1	95	

4. 主要課題別の取り組みと評価

基盤課題A 切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策

- 3歳児健康診査時点での予防接種完了率は年々上昇している。乳幼児への予防接種の案内方法の変更、および感染症予防に対する意識が高まっていること等が受診率の上昇につながっていると推測される。

指標	H30 (策定時)	R2	R3	R4	R5	R6	目標 値	
3歳児健康診査時点での予防接種完了率 (%)	67.9	69.3	71.0	73.0	75.0		70	◎



4. 主要課題別の取り組みと評価

基盤課題B 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

- 小中学生の肥満傾向児が増加。新型コロナウイルス感染症拡大による運動量の低下が要因の一つとして考えられる。
- 学校での取り組み状況については養護教諭部会でアンケートを実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、アンケートの実施は見送った。
- フッ化物洗口事業を実施している小学校のクラスの割合が、令和5年度は大幅に増加。新型コロナウイルス感染症の5類への移行や、学校との連携を継続してきたためと考えられる。
- 今後も学校保健と連携し、取り組みを行っていく。

指標		H30 (策定時)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値
児童生徒の肥満傾向児の割合 (%)	小学校	5.7	8.0	7.7	8.4	8.0		5.0
	中学校	6.4	9.1	8.8	8.9	8.4		6.0
	高等学校	10.3	9.2	8.8	7.7	7.6		9.5
フッ化物洗口事業を実施している小学校のクラスの割合 (%)		49.1	未実施	23.2	41.5	89.7		100

4. 主要課題別の取り組みと評価

基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

- 令和5年1月より、産前・産後サポート事業として「かるがもルーム」を開始。多胎マタニティクラス・多胎ママクラスを実施し、多胎児の育児等に寄り添った支援を行うとともに、参加者同士の交流の機会を設けている。また、産後ケア事業は、宿泊型に加え、令和4年7月より通所型、令和5年4月より訪問型を開始。新規事業の実施、事業の拡大等により支援の充実を図った。
- 「積極的に育児をしている父親の割合」が増加。令和5年度に実施した「船橋市子ども子育て支援アンケート調査」では、育児休暇を取得した父親の割合が平成30年度の4倍以上になっており、父親の育児休暇の取得率の上昇が関係していると考えられる。引き続き父親を含めた子育ての支援を行うとともに、多様化する子育て支援のニーズに対応し、親子が孤立することがないよう支援に取り組んでいく。



指標	H30 (策定時)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値	
産前・産後サポート事業参加人数（組）	調査後に 設定	未実施	未実施	マタニティ ： 15組 ママ： 20組	マタニティ ： 19組 ママ： 44組		次回調査時に 設定	
積極的に育児をしている父親の割合（%） 【4か月児健康相談、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の問診票の回答の合計より算出】	57.5	63.0	66.6	59.1	65.0		60	◎

4. 主要課題別の取り組みと評価

重点課題① 育てにくさを感じる親に寄り添う支援

- 「育てにくさを感じる保護者」は減少しているが、育てにくさを感じた時に対処できる保護者の割合も減少している。地域の子育てサークルや子育て支援センターを知っている人の割合が減少しているため、育児に関する相談の場についての情報が少ない保護者もいると推測される。
- 育てにくさを感じた時や対応に困った時に相談できる場についての情報提供および、支援を行っていく必要がある。

指標		H30 (策定時)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値	
育てにくさを感じる保護者の割合 (%)	4か月児健康相談	9.3	10.0	7.5	7.5	7.2		9	◎
	1歳6か月児健康診査	20.1	16.9	16.4	15.4	15.4		17	◎
	3歳児健康診査	25.7	23.3	23.8	22.2	24.2		23	
育てにくさを感じた時に対処できる保護者の割合 (%)		81.6	82.6	79.6	79.0	77.3		90	
【4か月児健康相談、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の問診票の回答の合計より算出】									



指標の値は、4か月児健康相談、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査問診票の設問の回答より算出

4. 主要課題別の取り組みと評価

重点課題② 妊娠期からの児童虐待防止対策

- 「体罰や暴言等によらない子育てをしている保護者の割合」は、計画策定時より増加しており、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査は目標を達成している。積極的に育児をしている父親の増加や、父親の育児休暇取得率の上昇、新型コロナウイルス感染症拡大によるリモートワークの普及等により父親の在宅率が高まり、気持ちに余裕を持って育児ができる保護者が増えたと推測する。
- 目標値については、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査は目標を達成しているが、全国と比較すると低い値となっているため、今後も保護者に寄り添った支援を行っていく。

指標		H30 (策定時)	R2	R3	R4	R5	R6	目標 値	国 実績 値 (R2)	
体罰や暴言等によらない子育てをしている保護者の割合 (%)	4か月児健康相談	89.7	91.3	92.3	93.6	92.3		100	93.6	
	1歳6か月児健康診査	74.8	78.6	79.9	77.6	79.8		78	82.7	◎
	3歳児健康診査	56.6	61.1	63.9	56.7	63.7		60	67.3	◎

指標の値は、4か月児健康相談、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査問診票の設問の回答より算出

4. 主要課題別の取り組みと評価

重点課題③ 事故予防対策の推進

- 「かかりつけ医をもつ子どもの割合」が減少している。乳児健康診査の受診率や予防接種の接種状況から受診に対する保護者の意識は高いと考えられるが、休診日や予約状況等により、当日に受診できる医療機関を選択する状況があると推測する。かかりつけ医をもつことの必要性については、引き続き保護者へ伝えていく。
- 3歳児健康診査で「チャイルドビジョンの体験」「窒息防止スケールについての周知」を行う予定だったが、感染対策を講じて健診を実施していたため、新たな取り組みを行うことができなかった。今後は、家庭訪問や地区活動等を通じて事故予防対策について伝えていく。

指標		H30 (策定時)	R2	R3	R4	R5	R6	目標値
かかりつけ医を持つ子どもの割合 (%)	4か月児健康相談	63.2	63.7	70.1	65.3	60.8		70
	3歳児健康診査	82.1	79.9	81.4	77.7	77.8		85
3歳児健診でチャイルドビジョンを体験した者の割合 (%)		調査後に設定	未実施	未実施	未実施	未実施		60
3歳児健診で誤飲・窒息防止スケールについて周知した者の割合 (%)		調査後に設定	未実施	未実施	未実施	未実施		60

指標の値は、4か月児健康相談、3歳児健康診査の問診票の設問の回答より算出

5. 「すこやか親子ふなばし」全体の評価

71指標110項目について評価した結果、改善した項目は37.3%、今回変化が見られなかった項目は20.9%、悪化した項目は22.7%だった。

- 新型コロナウイルス感染症拡大により、外出の機会が減少し、育児のサポートを受けることが難しい家庭が増加した。そのため、育児に対する不安や負担を感じる保護者の増加が懸念されたが、「育児が楽しいと思える」「体罰や暴言等によらない子育てをしている」「相談先がある」等の保護者の割合は大きな変化は見られず、増加している項目もあった。
- 乳児健康診査や予防接種等による受診状況から、医療機関で相談ができていた可能性が考えられる。また、支援が必要な家庭については、関係機関で連携して支援を行い、保護者の不安の軽減等に努めた。
- 産前・産後サポート事業の開始や産後ケア事業（通所型・訪問型）の事業拡大等により支援の充実に取り組んだことや、積極的に育児をしている父親の増加、リモートワークの普及等が育児に対する不安や負担等の軽減につながったと推測する。
- 育てにくさを感じた時に対処できる保護者の割合が減少。地域の子育てサークルや子育て支援センターを知っている人の割合も減少しており、育児に関する相談の場についての情報が少ない保護者もいると推測されるため、保護者への情報提供および支援を行い、引き続き妊娠期から子育て期に渡る切れ目ない支援を推進していく。